



飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

物部川地域アクションプラン 実行3年半の総括シート

「数値目標に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施

区分	評価基準	
A+		<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したもの → 目標の達成率（または達成見込率）が100%以上
A	第3期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほぼ達成したもの → 達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満
A-		<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 達成率（または達成見込率）が60%未満
B	第3期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの	
-	実績値がまだ出ていないなどの理由で現時点の評価ができないもの、または目標の設定がないもの	

【物部川地域アクションプラン 実行3年半の総括シート】

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>1 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>H38園芸年度を目標に策定した産地ビジョンに基づき、作型改善や環境制御技術の導入による経営の安定化等に取り組むことにより、農家所得の向上を図るとともに、日本一のニラ産地の維持・拡大を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・JA高知県（香美地区）</p> <p>※地域産業クラスター関係（日本一のニラ産地拡大プロジェクト）</p>	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸用ハウス整備支援(園芸用ハウス整備事業・産地パワーアップ事業)(H28～R元) ・そぐりセンター整備に向けた検討(H28～R元) ・調製作業機(そぐり機)導入支援（産地パワーアップ事業)(H28～R元) ・グリーンカレッジ(新規就農者勉強会)の開催：9回(H28～R元) ・新規就農者育成支援(H28～R元) <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコシステム栽培」登録、こうち環境・安全・安心点検シート実施、生産履歴記帳(H28～R元) ・出荷場GAP点検実施(H28～R元) ・地元小学校での出前授業・栽培体験（野市小学校、佐古小学校）(H29～30) ・食博覧会・大阪で点天とコラボし、ニラを出展・PR(H29) 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備による生産拡大意向農家：21戸 ⇒ハウス整備面積：4.8ha （実践型研修ハウス：30a） ・そぐりセンターの整備に向けた部会や関係機関等の合意形成 ⇒そぐりセンターの整備場所が決定 ・生産者の省力化対策実施の意向が高まった ⇒調製作業機(そぐり機)の新規導入：33台 ・担い手募集「産地提案書」の策定・提示：2提案（香美市・香南市） ・グリーンカレッジ参加者：64名 ⇒新規就農者：13名 <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な農産物生産への生産者の意識向上 ⇒「エコシステム栽培」登録、こうち環境・安全・安心点検シート実施、生産履歴記帳：全戸 出荷場GAP点検実施 ・小学生や父兄の認知度向上 ・子ども食堂、高齢者施設へニラ提供 ・PR来場者が多い食博（62万人）でのニラの認知度拡大

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
ニラ販売額 H31園芸年度：29.7 億円 (H27園芸年度： 27.1億円)	(R元年度未見込) 26.5億円 (直近の実績) 26.5億円 (H30園芸年度： H29.8月～H30.8月)	B	農業者の高齢化が進んでおり栽培面積は減少傾向 であるが、生産基盤の整備や作業の省力化対策が進 むとともに新規就農者も確保・育成され、産地力の維 持・強化に繋がった。 <課題> ・高齢化により栽培面積や生産者が減少している。 ・収穫後の出荷調製作業等の労働力が不足してい る。 ・ハウスや出荷場等の施設の高度化が一部進んでい ない。	・生産性の向上による農業者の所得 向上と産地力の強化を図るため、園 芸用ハウス整備事業や産地パワーアッ プ事業、環境制御高度化事業等の 導入・活用について、香南市や香美 市、JA高知県等の関係機関・団体と 連携して取り組んでいく。 ・新規就農者の確保・育成につい ては、就農計画の作成・実施による支 援やグリーンカレッジでの研修参加を促 していくことを関係機関・団体と連携し て取り組んでいく。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>2 南国市の園芸基幹品目シシトウの振興</p> <p>《南国市》</p> <p>全国一のシシトウ産地維持のため、関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県（土長地区） 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地ビジョン推進計画の検討（H28：4回、H29：8回、H30：8回、R元：7回予定） ・3JA合同会議（H28：4回、H29：4回、H30：4回） ・合同現地検討会（H28：－、H29：3回、H30：4回） ・現地検討会への部会員参加率向上 34%（H27）→40%（R元目標） ・各部会・現地検討会、勉強会（H28：7回、H29：13回、H30：10回、R元：10回予定） ・実証圃の設置および調査（H28：約30回、H29：約130回、H30：131回、R元：約130回予定） ・個別巡回指導（H28：延べ81回、H29：延べ237回、H30：延べ297回、R元：延べ250回予定） ・個別面談（H28：3名、H29：11名、H30：11名、R元：10名） <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3JA合同会議による販売推進計画検討（H28：3回、H29：6回、H30：4回） ・生産者大会の開催（H28～30、各年度開催） ・3JA合同による県外での販促活動（H28～H30、各年度1～2回） ・3JA合同での巡回品質検査（H28～30、各年度3回） ・出荷場のGAP点検（14回）やGAP研修会（1回、JA職員3名、農家4名参加）の開催（H30） 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期・中期の産地目標を設定した産地ビジョンの策定（H29） ・炭酸ガス施用や日射比例かん水等の新技術に取り組む農家が増加し、省力化技術の低位摘心法も実践（H28～） ⇒炭酸ガス施用効果が著しく高いことが明らかとなってきた。 ・現地検討会等、活動が活発化（H29～） ⇒経営向上を目的としたモデル農家を中心に、より積極的な経営目標を持つ生産者が出てきた。 ・経営改善志向の重点指導農家による栽培改善の実践（H29） ⇒重点指導農家は、7戸/10戸で前年度収量を上回り、H31園芸年度途中の1月末時点では、9戸/10戸が前年度を上回っている。 ・新規就農者の受入体制の整備 ⇒指導農業士の確保 H27：5名→H28：6名 ⇒受入体制整備による新規就農者確保 H29：3名、H30：1名 <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費宣伝活動計画および生産者大会の開催が決定され、関係機関、部会と連携して開催された。 ・消費地での産地PRにつながった。 ・3JA合同で継続した品質検査の実施 ・各出荷場とも場内環境の改善意識が高まり、定期的な点検・記録の実施 ⇒産地のまとまりが強まり、定期的な品質巡回検査により3JAの品質が安定した。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
JAシントウ出荷量 760t (H27園芸年度： 679t)	(R元年度未見込) － (直近の実績) 635t (H30園芸年 度：H29.9月～ H30.8月)	B	<p>H30園芸年度は台風の影響による収量低下、高齢化による面積減により著しく出荷量が低下した。また、高齢化による生産者や栽培面積の減少により、産地の維持が大きな課題となっている。</p> <p>しかし、経営向上モデル農家や経営改善志向重点指導農家では、環境制御等の新技術や省力化のための低位摘心法の導入などにより、著しい技術力の向上が見られ増収と省力化の両立を図っており、今後の産地の担い手として期待されている。</p> <p>また、産地維持のため、新規就農者の募集や農家研修を進めており、担い手確保、産地の維持に取り組んでいる。</p> <p><課題> 高齢化による生産者や栽培面積の減少。 増収や省力化のための新技術や基本栽培技術の普及。 新規就農者の確保。 収穫等の労働力確保、バック詰めの体制検討。</p>	<p>・環境制御等の新技術を導入し、増収をはかっている生産者を個別巡回等により支援し、産地の維持・強化を図る。</p> <p>・新規就農者の募集、確保を進め、研修ハウスの整備や農家研修等により、次世代の担い手確保を進める。</p> <p>・増収や省力化につながる技術支援を継続し、産地として生産性向上を進める。</p> <p>・労働力確保や販売・流通体制整備について支援し、産地の強化を図る。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>3 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化</p> <p>《南国市》</p> <p>還元水を活用した野菜の生産を拡大し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析により、機能性の検証を行う。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県土長地区出資農業生産法人(株)南国スタイル ・(株)トリムエレクトリックマシナリー ・高知大学 <p>※地域産業クラスター関係（南国市還元野菜プロジェクト）</p>	<p>＜「還元野菜」の生産拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力農家の募集 <p>＜還元野菜の販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かざぐるま市に還元野菜コーナーを設置（H29.11月～31.2月） ・「還元野菜」セットの販売（H26～）（(株)日本トリム顧客向け） <p>＜「還元野菜」の機能性の検証＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知大学による成分分析(抗酸化力の測定)（H30～） 	<p>＜「還元野菜」の生産拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験的に整水器を設置してもらうことで、協力農家が増えた。 ⇒還元野菜として販売する品目の充実 <p>＜還元野菜の販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かざぐるま市」に還元野菜コーナーの設置による売上の拡大 ⇒H29.11月～H31.2月の売上：2,133千円 ・(株)日本トリム顧客向けのセット販売による還元野菜の県外への販売数量の増 ⇒H27：331セット → H29：503セット <p>＜「還元野菜」の機能性の検証＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成分分析について、顕著な差は認められなかった。
<p>4 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>《香美市》</p> <p>高齢化により生産の維持が困難になっている国内最大のユズ青果出荷産地を維持するため、労働力を省力化した大規模経営体の育成を推進する。また、高齢者が生産活動を継続しやすい産体制を整備する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・JA高知県（香美地区） 	<p>＜担い手の育成・確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導農業士の増員（H28～30） ・産地提案書の改正（H28） ・新規就農を目指した研修生向けの指導マニュアル書作成のための情報収集（R元） <p>＜大規模経営体の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営改善計画書の作成に対する支援（H29～R元） ・防除作業の機械化への支援（H30） <p>＜高齢化に対応した生産体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意向調査による担い手の有無、経営規模、遊休園地等の実態把握（H28～R元） ・第3期産地構造改革計画の作成（H30） ・省力化に向けた出荷場の整備・更新の検討（R元） 	<p>＜担い手の育成・確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の受入体制（技術習得、農地確保）が整備され、円滑な就農ができるようになった。 ⇒指導農業士の確保 H28：1名→R元：5名 ⇒受入体制整備による新規就農者確保 H28：0名→R元：2名 ⇒農地中間管理事業による農地利用数4件（H30～） <p>＜大規模経営体の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者を確保するために経営改善計画書の作成を支援した。 ⇒認定農業者の新規及び再認定戸数 8戸（H28～） ・新たに1戸が省力化を図るためにスピードスプレアーを導入 導入戸数 3戸→4戸（H30） <p>＜高齢化に対応した生産体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態が解明され農地の流動化が図られた。 ・計画が策定され産地として目指す方向性が明らかになった。 ・出荷場の更新を部会で検討していくこととなった。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
協力農家の戸数 7戸(H28～31累計) (H27：3戸)	(R元年度未見込) 6戸 (直近の実績) 6戸(R元.5月末時点)	A	(株)日本トリムの整水器を使用する協力農家が一定増えてきたことにより、「還元野菜」の品目が増え、かざぐるま市での販売コーナーの設置や(株)日本トリムの顧客向けセット販売の回数及び内容が充実するなど、販路の拡大が図られた。 <課題> 機能性成分分析に顕著な差が認められず、機能性に基づく差別化は現時点では困難である。また、整水器が高価であることもあり、協力農家の拡大に工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関との分析・研究を引き続き行っており、結果に応じて関係者（(株)南国スタイル、(株)日本トリム等）の協議により、今後の戦略について検討する。 ・引き続き(株)日本トリムと(株)南国スタイル、JAが連携して協力農家の拡大などに取り組んでいく。
「還元野菜」の売上 10,000千円 (H27：1,200千円)	(R元年度未見込) 7,300千円 (直近の実績) 7,298千円 (H30年度末)	A		
機能性に基づく差別化 ができた品目数 3品目(H28～31累計) (H27：累計0品目)	(R元年度未見込) 0品目(H28～31累計) (直近の実績) 0品目(H28～30累計)	B		
ユズ販売額（JAへの入金額） 5.2億円 (H27園芸年度： 5.2億円)	(R元年度未見込) 5.2億円（H31園芸年度： H30.9月～R元.8月） (直近の実績) 4.4億円（H30園芸年度： H29.9月～H30.5月） ※H30園芸年度は裏年	A +	新規就農者の受入体制が整備され新規就農者が確保・育成されたこと、認定農業者の規模拡大や生産性が向上したこと、農地中間管理事業などの活用で担い手に園地が集積したこと、さらにH31園芸年度（H30年度産）の豊作と青果ユズの高値に支えられたことで、目標をほぼ達成した。 <課題> ・ユズの老木化が進んでおり、新植及び改植が遅れている。また、意向調査から遊休園地の拡大が見込まれる。 ・新規就農者の継続的な確保が求められる。 ・省力化のための選果機更新・高度化が必要となっている。 ・地理的表示保護制度を活用したブランド力の向上が求められている。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>5 「なの市」等の売上拡大による農家所得の向上</p> <p>《南国市》</p> <p>旧直販所「あけぼの市」を国道195号通称「あけぼの街道」沿いに移転拡充した「なの市」「なのカフェ」で、地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売及び飲食物の提供を行い、地域農業者の所得向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県長岡支所 ・(株)なの工房 ・畑の食堂Copan 	<p>＜利益率が高く、客層にあった新商品、新メニューの開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元果物を使った新商品の販売開始（H28） ・あけぼの街道ひまわりフェスタの開催（H28） ・旧なのカフェに「畑の食堂Copan」がオープン（H30.7月） ・「畑の食堂Copan」による新商品開発・販売（H31～） ・「畑の食堂Copan」が6次産業化セミナーを受講（R元～） ・販促活動の一環として、イベント用品（テント）を充実させ、R元.5月にイベントを開催した。 <p>＜組織体制や運営方法の改善による経費削減＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ、惣菜部門を廃止し、直販所に専念する組織再編を行った（H29） ・集客力アップのための店舗づくり 産業振興アドバイザーを招へい3回（H30） ・売上データ等の予実管理 産業振興アドバイザー招へい5回（H30） ・生産者の意見を反映させるための生産者会議を組織化（H30） 	<p>＜利益率が高く、客層にあった新商品、新メニューの開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧なのカフェに「畑の食堂Copan」がオープンし、女性を中心に人気を得ている、 ⇒畑の食堂Copan売上：17,102千円（H30.7月～H31.4月） ・「畑の食堂Copan」の新商品：4品目 <p>＜組織体制や運営方法の改善による経費削減＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織改編が行われ、予実管理を毎月行うことにより、経営改善が図られた。
<p>6 「ごとおち市」の売上拡大による農家所得の向上</p> <p>《南国市》</p> <p>旧直販所「ひかり市」を移転拡充した直販所「ごとおち市」で、地域農産物の販売や地域資源を活用した商品の開発・販売を行うことで、地域農業者の所得向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県土長地区十市支所 	<p>＜品揃えの充実及び情報発信による顧客獲得＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)南国スタイルと学校給食への食材供給で継続的な取引開始（H30.5月～） ・イベント（感謝祭）の開催（H26～） 	<p>＜品揃えの充実及び情報発信による顧客獲得＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の取引継続と品揃えの充実による売上増加 ・イベント（感謝祭）実施による来客者の確保 ⇒来客数：毎年約200人

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
直販所等の売上高 171,000千円 (H26 : 171,000千円)	(R元年度末見込) 126,000千円 (直近の実績) 125,329千円 (H30年度末)	B	<p>なの市を運営している(株)なの工房については、産業振興アドバイザー制度を利用し、組織体制や運営方法の改善を図り、アドバイザー派遣終了後も、予実管理を行い、経営改善に努めている。</p> <p>また、生産者の意見を反映させるため、生産者会議を組織した。</p>	<p>・予実管理の継続実施（日次管理表作成）。</p> <p>・経営力向上会議（(株)なの工房、JA高知県長岡支所、県、市、専門家等）による定期的な経営状況の確認と運営会議の開催</p> <p>・安定的な経営を維持するための仕組みと体制の確立を図るため、チーフ会、生産者リーダー会を定期的に開催するよう促していく。</p>
直販所等の雇用者数 32人 (H26 : 32人)	(R元年度末見込) 31人 (直近の実績) 31人 (H30年度末)	B	<p>「畑の食堂Copan」については、女性をターゲットにSNSで積極的に情報発信をするなど、売上の増加に向けた取組を進めている。31年度からテイクアウト商品の開発、販売を開始。6次産業化セミナーを受講し、名物メニュー、商品の開発や、外商できる商品の開発、既存商品の改良に努めている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所の売上高の向上 なの市となの市生産者との情報共有が不十分で、生産者会議があまり行われていない。 ・経営の安定化に向けた仕組みの構築 組織体制の問題等から、アドバイザーによる現場指導での助言・アドバイスを実践しきれていない。 	
直販所の売上高 50,000千円 (H26 : 28,250千円)	(R元年度末見込) 29,000千円 (直近の実績) 31,539千円 (H30年度末)	A -	<p>H30から学校給食の取引の開始や、毎年開催している感謝祭においてはH30年度から南国市役所と連携し、SNSを活用したイベントの告知などを行い、売上高の増加に努めており、H26年度に比べ、直販所の売上は増えている。</p>	<p>・6次産業化セミナーの受講や産業振興アドバイザー制度の活用等により、地元農産物を使った加工品開発や戦略的な店舗運営の検討を促していく。</p>
直販所への出店者数 100人 (H26 : 97人)	(R元年度末見込) 104人 (直近の実績) 104人 (H30年度末)	A +	<p><課題></p> <p>大型スーパーにおいて、産直コーナーの設置や贈答品の取扱が行われるようになり、直販所の売上が伸び悩んでいる。また、店舗運営の方向性が定まっておらず、戦略的な運営が出来ていない。</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>7 地元野菜の消費拡大による地域農業の活性化</p> <p>《南国市》</p> <p>(株)南国スタイルを中心に学校給食や業務筋への地元野菜の供給を行うとともに、生産者と消費者をつなぐ場である「農家レストランまほろば畑」の経営の安定化を図ることにより、地産地消を推進し、地域産業の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J A 高知県土長地区出資農業生産法人 (株)南国スタイル ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 ・道の駅南国風良里 <p>※地域産業クラスター関係（南国市還元野菜プロジェクト）</p>	<p>＜学校給食・業務筋への食材供給体制の整備及び供給拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先からの照会や、従業員による営業活動により新規供給先の開拓（H24～） <p>＜「農家レストランまほろば畑」の経営安定化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会（年1回）、役員会（年4回程度）の実施（H22～） ・先進地視察研修の実施（年1回、H22～） ・周年月間祭（各グループ1回の計3回、H23～）、高校生とのコラボレストラン（年1回、H28～）の開催 	<p>＜学校給食・業務筋への食材供給体制の整備及び供給拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校への給食用食材の配送システムが整い、地元野菜の供給割合は順調に伸びている。また、業務筋への配送先も拡大している。 ⇒週1回以上の定期的な配送先 H27：21事業所→H30：30事業所 <p>＜「農家レストランまほろば畑」の経営安定化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会の定期的な開催により、各グループ間で課題などの情報共有ができた。 ・周年月間祭、高校生とのコラボレストランの開催により、集客に繋がった。 ⇒オープン（H22）からの累計来店客数：58,507人 オープン（H22）からのレストラン開催数：307回開催
<p>8 農園レストランによる地域食材の消費拡大</p> <p>《南国市》</p> <p>地域の農家所得の向上を図るため、地元食材をフル活用したオリジナル料理を堪能できるレストランとベーカリーを運営し、地元食材の消費を拡大するとともに新たな魅力を発信する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ナイフアンドフォークカンパニー 	<p>＜レストランとベーカリーの運営、情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤギミルクをはじめとした地元食材の活用を継続（H26～） ・旅番組や、旅行雑誌、地元情報誌への掲載を通じた情報発信、店舗でのイベントの開催（毎月）や、イベントでのパンブースの出店（月1程度）（H27～） 	<p>＜レストランとベーカリーの運営、情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元食材の積極的な活用 ・TV、広告等での宣伝、イベントの開催、情報誌等への掲載により、集客に繋がっている。
<p>9 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>《香南市》</p> <p>地場産品を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同組合やすらぎ市 	<p>＜主力商品の定着・充実による経営の安定化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版HACCP第2ステージ認証取得（トマトソース、赤生姜シロップ）に向けた取組 ・生産販売計画及び実績の検討（年4～5回） <p>＜新商品の開発及び既存商品の改善による顧客の満足度の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発 産業振興アドバイザー招へい2回（H28） ・赤生姜シロップのラベル、パッケージの改善（H30） ・F B配信（H27～） ・直販所個別セミナー参加による店内レイアウトの変更（H30） 	<p>＜主力商品の定着・充実による経営の安定化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版HACCP第2ステージ認証取得（トマトソース、赤生姜シロップ）（H29） ・衛生管理面の向上や生産体制の充実を図ったことで主力商品の定着につながった。 <p>＜新商品の開発及び既存商品の改善による顧客の満足度の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 H28：15品、H29：13品、H30：12品

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
学校給食における地元 野菜の供給金額（割 合） 6,455千円 (25%) (H26：5,373千円 (20.81%))	(R元年度未見込) 7,100千円 (26%) (直近の実績) 7,152千円 (26.28%) (H30年度末)	A +	学校給食と業務筋への食材提供は、配送システムの整備と取引先の拡大により、供給金額が伸びた。「農家レストランまほろば畑」は、当初5グループでの輪番制であったが、グループのメンバーの高齢化によりH28.4月より3グループでの運営に移行。来店者数は平均180人を超え、安定的に運営が行われている。 (H22～30で計307回開催、総来客数58,507人) <課題> 学校給食は端境期の野菜の確保と、(株)南国スタイルの労働力の確保、中学校給食の場合は、運営を民間業者に委託されており、価格の問題でなかなか取り扱ってもらえないといったことが課題となっている。「農家レストランまほろば畑」は、後継者の育成が課題となっている。	・中学校給食への供給を含めた、新規供給先の開拓を促していく。 ・まほろば畑の各グループにおいて後継者の確保、育成の取組を進めるとともに、グループ間の情報共有を行い、よりよい運営体制の整備に努めていく。
業務筋への供給 25事業体 (H26：20事業体)	(R元年度未見込) 30事業体 (直近の実績) 30事業体 (H31.4月末)	A +		
売上高 200,500千円 (H26：0円)	(R元年度未見込) 171,000千円 (直近の実績) 165,917千円 (H30年度末)	A	地元食材の活用に努め、食材の地産地消率はオープン以来、目標を達成し続けている。積極的なイベントの開催や、宣伝を行い、一定集客し、売上も年々伸びてきている。 <課題> オープンした年は、売上高目標を達成したものの、2年目からは目標に達成しておらず、引き続き店舗でのイベントなどを開催していくとともに、今後も新たな食の魅力を発信し、集客に努めていく必要がある。	・地域食材の活用継続及び定期的なイベントや商品企画などを実施するとともに、マスコミや広報誌等を活用したPR活動を継続していく。
食材の地産地消率 83% (H27：83%)	(R元年度未見込) 86% (直近の実績) 86% (H30年度末)	A +		
加工品販売額 1億円 (H26：0.96億円)	(R元年度見込) 1億円 (直近の実績) 0.97億円 (H30年度末)	A +	新商品については、産業振興アドバイザー等からの助言もあり、定期的に開発出来ている。既存の商品も含めた販売動向の分析や製造計画に向けた検討会も年に4回開催し、課題や情報の共有が図れている。新たな販路拡大に向けては、商談会等を活用したことで、赤生姜シロップのまろごと高知への外販にもつながった。 <課題> 生産農家の所得向上を目指すため、加工品製造販売計画の策定・実行、加工体制の充実を図っていく必要がある。	・安定した加工品製造・販売を行い、引き続き生産農家の所得向上につなげていく。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>《南国市》</p> <p>坂本龍馬の逸話を活かした「シャモ鍋」等の新たなメニューを創出し、イベントでの販売や加工品販売により、県内外に向けてご当地グルメとして情報発信を行う。</p> <p>また、ごめんケンカシャモの飼育・安定供給体制を整備し、トレーサビリティの確立等による高付加価値化を図ることで、ブランド鶏肉としての外商戦略を展開していく。</p> <p>これら、生産から販売までの過程を通して、ごめんケンカシャモを知ってもらい南国市を訪れてもらう『地産「来」消』の仕組みの確立を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市 <p>※地域産業クラスター関係（南国市農業クラスタープロジェクト（ニラ））</p>	<p><「ごめんケンカシャモ」の安定供給体制の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食鳥加工センター整備（H29） ・HACCP研修受講（H29） <p><加工品開発及びご当地グルメとしての確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発（H30） ・ギフト用としてパッケージデザインを作成、販売促進の実施 <p><高級食材としての外商戦略づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー招へい3回（H30） <p><「軍鶏伝」の売上増加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSや朝の情報番組（H29フジテレビ）、グルメ特集コーナー（高知）などマスメディアを活用したPR活動（H27～） <p><組織の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会の開催（月1回） 	<p><「ごめんケンカシャモ」の安定供給体制の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工センターを整備し、またHACCP研修受講研修を受講したことで、衛生管理体制の充実を図ることが出来た。 ⇒雇用の創出：2名（H29～） ⇒県版HACCP第2ステージ2 認証取得（R元） <p><加工品開発及びご当地グルメとしての確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品（シャモ焼きやき）販売開始 ⇒30セット販売（R元、7月時点） <p><高級食材としての外商戦略づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に流通している他のシャモ肉との比較を行い、外商戦略について検討 ⇒HPの見直し（ごめんケンカシャモの安全性・希少性及びブランドイメージの向上） <p><「軍鶏伝」の売上増加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27にひろめ市場内にオープンした直営店「軍鶏伝」において県内外の方に「ごめんケンカシャモ」をPR ⇒売上高の増加 H28：10,275千円 →H30：33,521万円 <p><組織の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経理部門の体制強化 ⇒雇用の創出：1名（H29～）
<p>11 ヤギミルクの生産体制強化及び流通促進事業</p> <p>《南国市》</p> <p>流通の少ない、ヤギミルク及びヤギ肉の安定供給を図るため、畜舎の整備等により生産体制を強化する。また、飲料・原料としての商品づくりのほか、県内事業者との連携による新たな加工品の開発により高付加価値化を図り、ヤギミルクを中心とした外商戦略を展開していく。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川添ヤギ牧場 	<p><畜舎等の整備・機能拡充></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新畜舎の整備、搾乳・飼料生産機械の導入（H29） 産業振興推進総合支援事業費補助金 H28：21,599千円 <p><ヤギミルク・ヤギ肉の安定供給体制の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育データの収集・蓄積、高知大学等との共同研究による品質向上（H30） ・産業振興アドバイザー招へい5回（H30） <p><販路開拓及び加工品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり乳業(株)による飲用ヤギミルクの商品化と販売開始(H28) ・加工事業社への販路開拓（H24～） ・ヤギ肉試食会の開催、ヤギ肉の販路開拓（H28） ・目指せ！弥太郎商人塾を受講（H29） 	<p><畜舎等の整備・機能拡充></p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎の整備等により生産体制を強化を図ることが出来た。 ⇒飼育ヤギ頭数の増加 H27：36頭→H30：147頭 ⇒雇用の創出 H28：正社員2名、パート0名 →H30：正社員4名、パート3名 <p><ヤギミルク・ヤギ肉の安定供給体制の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤギの専門家からの指導を受け飼育技術等の向上 ⇒一頭あたりの搾乳量が2～3倍に増加し、売上の向上につながった <p><販路開拓及び加工品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤギミルク、ヤギ肉等の取引先の増 ⇒飲用ヤギミルク：1社 加工用ミルク：10社 ヤギ肉：4社

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
売上高 65,000千円 (H26 : 21,553千円)	(R元年度末見込) 55,000千円 (直近の実績) 51,780万円 (H30)	A	売上が目標値に届かなかった原因として、自社製品（シャモ鍋セット等）の営業活動が足りなかったことが挙げられる。直営店の軍鶏伝の売上は堅調であり、ひろめ市場の来場者に向けてごめんケンカシャモのPRができています。 ごめんケンカシャモの提供店舗数は、目標とする20店舗を達成しており、南国市を訪れてもらう『地産「来」消』の仕組みの確立に向けて引き続き市内の提供店舗との協力体制を構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・県版HACCP第2ステージの認証が取得できたが引き続き、衛生管理の徹底に取り組む。 ・県外では希少な純血100%を売りとして販売促進をすすめていく。 ・冬場に人気の「シャモ鍋セット」「シャモすきやきセット」に加えて、夏場にも販売出来る新商品「シャモ焼きやき」の販促活動を強化し、シャモの更なるPRと売上増加を図る。
ごめんケンカシャモ提供店舗数（市内） 20店舗（累計） (H26 : 19店舗)	(R元年度末見込) 21店舗 (直近の実績) 21店舗 (R元.6月末)	A +	<課題> シャモ鍋セット等の自社製品の営業活動を積極的に行い、売上を伸ばすことが課題である。	
シャモ目標飼育羽数 3,000羽 (H26 : 1,859羽)	(R元年度末見込) － (直近の実績) 2,341羽 (H30)	A -		
売上高 30,200千円 (H26 : 1,800千円)	(R元年度末見込) ミルク(加工用含む) 20,000千円 ※肉の売上は見通しが立てづらいため、上記の金額に含んでいない。 (直近の実績) 5,918千円 (H30)	A	H29年度の畜舎等の整備により、生産体制が強化され、ヤギミルクの売上金額が大幅に増加した。 この整備により、2名の正社員、3名のパート従業員を雇用しており、地域の雇用創出につながっている。 (H30) H30年度は搾乳量が減少し、目標としている売上げを大きく下回ったため、専門家から指導を受け、具体的な対策を実行した結果、令和元年度は前年度を大きく上回る売上の増加が期待できる。 <課題> 県内で前例がないヤギの産業化、多頭飼育や販路開拓に取り組んでいるため、ヤギの飼育やヤギミルク等の販売に関する情報が少ない。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>12 地域と連携した高知県産ワインのブランド化の推進</p> <p>《香南市、南国市》</p> <p>ブドウ栽培からワインの醸造・販売までの一貫した体制の構築に向け、ブドウの栽培面積の拡大や醸造施設の建設、人材の育成等に取り組むとともに、高知県の食材とのコラボレーションやPR活動を行い、県内産ワインとしてのブランドを確立する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上ワイナリー株式会社 ・井上石灰工業株式会社 	<p>＜栽培面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在保持している圃場の拡大と、香南市内外の遊休地確保に向けた働きかけ <p>＜醸造・生産体制の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県の醸造所への視察、研修等 産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業） H30：1,425千円 ・醸造施設の設計に対する指導・助言 産業振興アドバイザーの招へい2回（H30） <p>＜ブランドの確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PRイベント（新酒発表会）の開催（H30～） ・メーカーズパーティ、剪定体験会の開催（H29～） ・PR動画の作成（H30） ・空港での広告実施（H30～） <p>＜人材育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醸造技術習得のための研修の実施（H30, 1名） 	<p>＜栽培面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな圃場の確保 ⇒H30：7.5反 → R元：11.5反 ・梶原町との連携協定の締結（遊休地の活用） <p>＜醸造・生産体制の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醸造施設の基本設計完成（H30） <p>＜ブランドの確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR動画や販促品を活用した広告、イベントへの出展、収穫体験等を通して、高知県産ワインとしての認知度の向上 ⇒TOSAワイン同盟会員数：505名（R元） 各種イベントの参加者数：延べ546名（H29～） ⇒高知県地場産大賞奨励賞受賞（H30） <p>＜人材育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醸造技術取得のための研修受講者数：1名 ⇒醸造施設建設後のスムーズな施設稼働の認識が深まった。
<p>13 民有林における原木の増産</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、原木の増産に取り組む。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各森林組合 ・林業事業体等 	<p>＜地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械、作業道など基盤整備 原木増産推進事業（H28～） 高性能林業機械の導入 H28：2台 H29：2台 H30：1台 計：5台 作業道 H28：15,640m H29：9,284m H30：17,729m 計：42,653m <p>＜境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用＞</p> <p>＜OJT（緑の雇用）や林業学校と連携した担い手の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 森の工場でOJTを実施 H28：9人 H29：9人 H30：未確定 	<p>＜地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木増産推進事業により高性能林業機械の導入や作業道の開設が進み、生産量の工場につながった。 <p>＜境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用＞</p> <p>＜OJT（緑の雇用）や林業学校と連携した担い手の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の導入や作業道などの基盤整備、伐採、搬出技術を有する職員の育成により労働生産性が向上した。 ⇒労働生産性 香美森林組合 H29：皆伐5.9m³/人日 間伐3.7m³/人日 →H30：皆伐6.2m³/人日 間伐3.8m³/人日

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
ワインの売上高 9,869千円	(R元年度未見込) － (直近の実績) 10,939万円 (H30年 度末)	A +	醸造施設建設に向けて着実に進んでいる。ブドウ栽培についても、自社園場だけでなく、栲原町との連携等により栽培面積を順次拡大している。 また、地場産業大賞奨励賞の受賞や剪定体験、新酒発表会等により、各種メディアに取り上げられ、県内外の幅広い世代にワインを認知してもらうことができた。 <課題> 園場拡大は進めているものの、まだまだ葡萄の収穫量が少ないため、今後は自社園場の拡大とともに、ブドウを栽培して貰える協力農家を増やし、収穫量の増加に努めていく。	・醸造施設の建設、稼働による県内での生産体制の確立 (R2) ・栲原町のみにとどまらない、県内各地域との連携による「土佐ワインバレー」の実現
素材生産量 (民有林のみ) 50,000m ³ (H26 : 35,887m ³)	(R元年度未見込) 52,300m ³ (直近の実績) 51,806m ³ (H30年度末)	A +	素材生産量については、原木増産推進事業により林業機械の導入や作業道の整備が進んだことで生産量が伸び、目標達成できた。 <課題> ・作業道及び高性能林業機械等を活用した効率的な作業システムの構築や新たな担い手の育成・確保が必要である。	・高知おとよ製材(株) (H25) や土佐グリーンパワー(株) (H27) の稼働による需要の増加に対応する、素材の安定供給を行うため、原木増産推進事業の支援により、作業道及び高性能林業機械等を活用した効率的な作業システムの構築に取り組む。 ・H30に開校した林業大学と連携した新たな担い手の育成・確保に努める。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>14 シイラ等の加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラや養殖魚等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協手結支所 	<p>＜漁協の入札参加と養殖業者等との協業化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜値の底上げ（支所が最低価格30円/kgで買い支え）の維持 ・県外水産会社と連携した学校給食用の加工品開発と販路拡大（H26～） ・県外の大手外食チェーンへの販路拡大（H27～） <p>＜衛生管理の向上と生産体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県食品高度衛生管理手法認定を取得（H27） <p>＜協業化による新たな魚種の取扱と新規販路獲得＞</p>	<p>＜漁協の入札参加と養殖業者等との協業化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シイラ原魚購入数量 H28：160 t H29：135.1 t H30：215.5 t ・山田学校給食センターの納品（H30～）
<p>15 地域の特産品づくり</p> <p>～農産物加工への取組～</p> <p>《南国市》</p> <p>農産物等の6次産業化の推進に向けて、地域資源を活用して特産品開発に取り組む組織・グループを育成するとともに、顧客ニーズに沿った特産品づくりを促進する。また、商品化された加工品の売り込みを通じて、地域の魅力を発信する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西島園芸団地など既存企業・組織・グループ ・新しい組織・グループ ・JA高知県土長地区出資農業生産法人(株)南国スタイル ・南国市商工会 ・(一社)南国市観光協会】 	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市単独補助金「地域特産品等研究開発事業」において、特産品開発等に係る事業を支援（H24～） H28：6件採択（うち販促5件） H29：6件採択（うち販促4件） H30：7件採択（うち販促6件） <p>＜直販所等の活用により、販路拡大につなげる取組（地産地消から外商へ）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅南国風良里で新商品開発のためのワークショップを開催（H30：3回） 	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市単独補助金を活用した新商品開発や販促活動に対する支援により新商品の定番化 ⇒新商品 H28：1品目 H29：5品目 H30：3品目 <p>＜直販所等の活用により、販路拡大につなげる取組（地産地消から外商へ）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅南国風良里において、2商品を開発中

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
シイラ加工事業の販売額 H31：20,000千円 (H26：16,011千円)	(R元年度未見込) 49,395千円 (直近の実績) 63,281千円 (H30年度末)	A +	有望な取引先とのパイプが太くなり毎年度売上額が伸長したことで、漁業者の所得向上が一層図られた。新たな魚種の取り扱いについては、養殖魚の流通市況等により漁協と生産者（養殖業者）の取扱要望が低く、またシイラの販売量の増大によりシイラの出荷作業等へ注力したことにより進展しなかった。	・安定的な取引をしている既存の大口取引先を中心に、販路拡大の連携強化を図り、売上額の安定的な増大を図っていく。
新たな魚種の取扱い尾数（新規） H31：3,000尾	(R元年度未見込) 0尾 (直近の実績) 0尾 (H30年度末)	B	<課題> 大口取引先の都合等により販売量へ影響が出る恐れがある。	
地域資源を活用した新たな特産品数 10品目(H28～31累計) (H26：0品目)	(R元年度未見込) 10品目 (直近の実績) 9品目 (H30年度末)	A +	市単独補助金の活用により、有機グアバクッキーや梅・生姜を使用したゼリー、ヤギミルクジェラードなど地域資源を活用した新商品の開発や販促活動による支援があることで、市内の事業所から評価を得ている。 <課題> 地域資源を活用した新商品の開発は一定進んでいるが、既存店舗で販売するための商品開発でありロットが小さい。ふるさと納税対応や、小ロットでも対応可能な取引先の開拓を行い、外商できる商品づくりを進めていく必要がある。また、市単独補助金の申請事業者が固定化してきており、事業者の掘り起こしも必要である。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>16 ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地活性化プロジェクト</p> <p>《南国市》</p> <p>「ものづくり、ひとづくり、まちづくり」の拠点施設となるものづくりサポートセンターの整備により、ものづくりを志す人材が集うまちとして、交流人口の拡大や商店街の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市商工会 ・南国市 ・南国市中心市街地活性化推進協議会 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>＜ビジョンに基づく賑わいの創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂と南国市が連携協定を締結（H28） ・ごめんよってご広場を平常時にも集う場として活用できるよう環境整備（H30） <p>＜各種イベントの開催や空き店舗の活用等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんよってご広場を活用したイベントの開催 <p>H28：ナンフェス（来場者867人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂と連携し、「ものづくり」をテーマにしたイベントの開催 <p>H30：まけまけマーケット ナンコクフェスティバル</p> <p>＜ものづくりサポートセンターの整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりサポートセンター基本計画の策定（H29） ・中心市街地活性化推進協議会による地域経済活性化拠点づくりに向けた計画の策定（H30） <p>地域経済活性化拠点施設整備等事業費補助金(地域経済活性化計画策定事業)</p> <p>H30：1,350千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりサポートセンター基本設計及び実施設計の策定（H30） ・ものづくりの拠点施設の整備 <p>地域経済活性化拠点施設整備等事業費補助金(地域経済活性化拠点施設整備事業)</p> <p>R元：51,000千円</p>	<p>＜ビジョンに基づく賑わいの創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊（2名）を常駐させクラフト系のワークショップ等を定期的に開催（H30年～、月4回） <p>⇒参加者5人／回</p> <p>＜各種イベントの開催や空き店舗の活用等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催に合わせて、空き店舗を活用した展示や作品販売を実施 ・イベントの開催による中心市街地でのにぎわいの創出 <p>⇒まけまけマーケット来場者数：約3,000人 ナンコクフェスティバル来場者数：約2,000人</p> <p>＜ものづくりサポートセンターの整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3.3月オープンに向けた施設整備の推進 ・造成工事の開始（R元.6月～）
<p>17 ヤ・シィパークを核とした地域の活性化推進プロジェクト</p> <p>《香南市》</p> <p>地域の自然や食材を生かした賑わいの拠点づくりを進めるため、ヤ・シィパークを核にした仕組みづくりや体制づくりに官民一体となって取組み、地域の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ヤ・シィ ・香南市 ・民間事業者 	<p>＜ポスト維新博に向けた仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤ・シィパーク将来構想検討会の開催（H29） ・ヤ・シィパーク活性化協議会の開催（H30） ・ヤ・シィパーク等を活用した観光コンテンツの開発 <p>産業振興アドバイザーの招へい</p> <p>H29：3回、R元：3回（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドデザイン策定の策定、備品購入、イベントの開催 <p>H30：高知県観光拠点整備事業費補助金 5,944千円</p> <p>キャンプ事業の整備（グランピングテント、大型テントの購入）</p> <p>キャンプイベントの開催（2回）</p> <p>SUP関係の備品購入</p> <p>＜売り上げアップに向けた取り組みの強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工所兼店舗の整備（H28） <p>高知県産業振興総合支援事業費補助金 H27：37,199千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販促活動の出展 <p>商談会への参加</p> <p>(H29：4回、H30：2回、R元：1回)</p> <p>パンフレット作成、包装フィルムの改良</p> <p>高知県食品産業総合支援事業費補助金 H30：5,944千円</p>	<p>＜ポスト維新博に向けた仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドデザイン策定後、庁内関係部局で今後の事業化に向けた検討開始 <p>⇒サイクリングロードの整備及びヤ・シィパークの調査事業の予算化（R元.6月補正）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SUP体験事業の体制整備 <p>⇒R元.6月～ 受入開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプイベント開催 <p>H30：12月・3月、75名（大人37名、子ども38名）</p> <p>H31：5月、16名（大人10名、子ども6名）</p> <p>＜売り上げアップに向けた取り組みの強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販促活動の強化による取引件数の増 <p>新規取引件数：28件（H28：6件、H29：6件、H30：7件、R元：7件）</p> <p>⇒H28：618千円 → H30：6,111千円 （高島屋の夏のカタログでの取扱い（H30～））</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
空き店舗活用数 7件（累計） （H26：1件）	（R元年度未見込） 6件 （直近の実績） 6件 ※イベント使用 4件（外数）	A	<p>中心市街地活性化の拠点となるものづくりサポートセンターの整備に向けて、ハード事業が具体的に進んでいる。</p> <p>整備事業を契機として、「ものづくり」をテーマとしたイベントを継続して開催しており、中心市街地の賑わいが創出されるなど、ソフトの取組や市民に向けて事業の周知も行われている。</p> <p><課題> イベント開催時には、市内外から集客があり賑わいが創出されているが、一時的な賑わいに留まっており、日常的な賑わい創出には至っていない。</p>	<p>・R3.3月の「ものづくりサポートセンター」の開館に向けて、中心市街地活性化協議会、市商工会との連携を図るとともに、中心市街地エリアの事業者を当該事業に巻き込み、日常的な賑わい創出に繋げていく。</p>
加工所兼店舗の売上高 54,193千円 （H27：0円）	（R元年度未見込） 35,600千円 （直近の実績） 26,868千円 （H30年度末）	A	<p>ヤ・シィパーク将来構想を検討し、H30にグランドデザインを策定することで、今後のヤ・シィパークの整備に向け前進した。また、観光拠点補助金の活用により体験メニューの造成に向けた整備ができた。</p> <p>商業施設内に設置したショップの売上は販促活動の強化により取引先が増加し、売上の増加につながっている。特に、H30の高島屋のお中元ギフトへの採用は売上増加に大きく寄与している。</p> <p><課題> キャンピング事業など公園整備を県が実施していく中、マリンアクティビティの体験メニューの充実や観光客の受入体制などで必要となるソフト面での仕組みづくりと現在運営している(株)ヤ・シィの体制強化 加工所兼店舗の更なる売上増加のため、従業員の育成及び人材確保</p>	<p>・ヤ・シィパーク活性化推進協議会でマリンアクティビティやサイクリング事業、物部川流域の旅行商品化に向けた取組など、ソフト面での戦略づくりを行っていく。</p> <p>・加工所兼店舗の運営体制強化のためのOJTによる人材育成 ・売上増に向けた店舗の新メニューの開発や外販の強化</p>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>18 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・香南市内の事業者 	<p>＜地場産品の開発と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタログの発行（H22～） 通年号、サマーフェアチラシ ・県内外への出店・カタログ等によるPR H28：46回 H29：35回 H30：31回 ・その他地元ケーブルTVでのPR（H26～） <p>＜地場産品販売促進体制の検討＞</p>	<p>＜地場産品の開発と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギフトカタログへの参加事業者の増加 H28：36店舗→H30：46店舗 ⇒カタログギフトの売上の増加 H28：2,811千円→H30：3,870千円 ・ふるさと応援寄附金返礼品の増加 ⇒ふるさと応援寄附金の売上の増加 H28：14,189千円→H30：91,391千円 <p>＜地場産品販売促進体制の検討＞</p>
<p>19 香美市における特産品づくりの推進</p> <p>《香美市》</p> <p>地域資源を活用した魅力ある特産品（加工食品）づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)香美市観光協会 ・(協)韮生の里 ・奥ものべじじばあんぜん会 ・コハマ農産物直販所 ・香美市 	<p>＜特産品開発、販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発 6次産業化支援チームによる支援 6次産業化セミナー受講 H28：4回 6次産業化アドバイザー招へい H28：5回 6次産業化支援チーム会開催 H29：3回 産業振興アドバイザー招へい 3回（H30） ・パッケージデザイン、販売促進の実施 商品力強化事業費補助金 H28：143千円 H29：148千円 集落の活力づくり支援事業費補助金 H29：190千円 ・香美市ものづくり会議分科会において物部川ブランドの構築について協議（H30～） <p>＜経営安定化、後継者育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各補助金やアドバイザー事業の導入により、収益力の向上を図り、新たな人材の獲得が可能な事業体となることを目指している。 ・HACCP研修、食品表示研修を受講（H30） <p>＜地域の販売拠点施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美良布地域活性化の拠点となる施設（食堂部分）の魅力づくり 産業振興アドバイザー招へい 3回（H29） 直販所支援アドバイザー招へい 5回（H29） 集落活動センター推進事業費補助金 30,000千円(県費) H29,30 	<p>＜特産品開発、販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発：7品 ⇒H30売上：約5,000千円 <p>＜経営安定化、後継者育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発に伴う取扱商品の増加 ⇒加工品売上が増加し経営の安定が図られた <p>＜地域の販売拠点施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売拠点施設の改築整備及び各アドバイザーの指導により、商品化位置や展示の改善を実施し、機能的で効率的な施設となった。 ⇒地域産品の販売体制の強化充実を図ることができた。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
売上高 20,000千円 (H26 : 8,407千円)	(R元年度未見込) 104,200千円 (直近の実績) 115,592千円 (H30年度末)	A +	ふるさと応援寄附金事業では、香南市総務課職員と香南市観光協会が事業者との打合せを重ね、返礼品の種類を増加させるとともにふるさとチョイスなどのサイトを活用し積極的にPRしており、売上が大幅に伸びている。 <課題> 売上は順調に推移しているが、さらなる売上の向上に向けてふるさと応援寄附のサイトづくりの工夫が必要	・引き続き香南市の魅力を伝えるべく、ギフトカタログやふるさと応援寄附金を通じて幅広い年齢層へのPRを強化 ・令和元年度中に香南市版ふるさと応援寄附金サイトを立ち上げ
開発商品売上額 10,000千円 (17商品) (H26 : 8,717千円 (14商品))	(R元年度未見込) 12,000千円 (24商品) (直近の実績) 11,171千円 (21商品) (H30年度末)	A +	開発商品の売上増に向けて、それぞれの事業所が新商品の開発に積極的に取り組み、H30年度実績で目標額を達成している。また、H29年度にはふるさと納税の制度変更に係る駆け込み需要もありR元年度目標値比163%を記録。 <課題> 食品表示や衛生管理体制の新たな制度への対応や営業の強化、経営を意識した組織作り 各団体メンバーの高齢化に伴う組織の弱体化 新たな人材の育成による組織経営力及び営業力の強化	・食品表示やHACCPなど新たな制度への対応については、県等が行う各種研修会の未受講団体の参加を促す。 ・価格設定や既存商品の見直しなどを行い、積極的に外商に取り組める体制づくりを進めていく。 ・売上額、品目数を一層伸ばしていくため、新たな設備導入に向けた検討 ・新たな人材の確保・育成に向け、OJT研修の充実やアドバイザーの積極的に活用による組織の強化

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>20 地場産業（土佐打刃物、フラフ）の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>販路開拓のため、新商品の開発やイベント等への出展、海外向けにもアプローチできるネットでのPR・広報を強化する。また、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 ・香美市 	<p>＜土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラフの普及 市役所本庁舎、支所の国旗掲揚台及びセレネ広場、龍河洞、秦山公園、香美市消防署、土佐山田スタジアム、香美市商工会、香美市いんふぉめーしょんへのフラフの掲揚（H29～） 「フラフのある風景 フォトコンテスト」の開催（R元） →グランプリの写真を使ったポロシャツを制作して市職員着用によるPR（R元.7月～） スターウォーズ公開記念スペシャルフラフお披露目イベント開催（H30） ・フラフの販促 大型客船の地域観光コースに「香美市を巡るツアー」を組み込み、フラフの製造現場視察や染め体験を実施（H31.3月～） ・土佐打刃物の販促活動 業界（トリマー）からの依頼によりくろねこナイフの製造、販売開始（H29.12月～） ・香美市ものづくり会議分科会において土佐打刃物・フラフの進行について協議 <p>＜次世代を担う人材の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛冶職人育成施設整備（R元） 産業振興推進総合支援事業費補助金 H30：1,137千円 H30繰：25,426千円 産業振興アドバイザー招へい2回（H30） 	<p>＜土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラフの普及 各所へのフラフ掲揚、フォトコンテスト開催等による普及活動 ・大型客船の観光客によるフラフ製造現場の視察、体験 ⇒ツアー参加者数：5回、133人 ミニフラフ、法被、コースターなどフラフの派生商品販売額：約60万円（推計） <p>＜次世代を担う人材の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛冶職人育成施設整備により、後継者育成体制の強化充実を図ることができた。 ⇒研修生3名入学予定（申込数：10名）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
地場産業（土佐打ち 刃物、フラフ）後継者 数 3人（H28～H31累 計）	（R元年度未見込） 0人 （直近の実績） 0人 ※現時点での鍛冶屋 養成塾への研修生申 込数10名	B	鍛冶屋創生塾の開校により、後継者を育成する体制 が構築された。今後は、土佐打刃物の産業としての更 なる発展と塾生確保の取組が必要である。 フラフについては、市の施設での掲揚やフォトコンテスト の開催などにより広く普及が図られた。また、高知新港 への客船寄港の際はフラフ体験も組み込まれ好評で ある。 <課題> ・鍛冶屋創生塾卒業生の雇用場の確保、さらなる研鑽の 場の確保、伝統産業の観光資源化、販路の拡大が 課題である。 ・フラフを活用した新商品の開発	鍛冶屋創生塾の全国的なPRによる 人材の確保、研修体制の磨き上げ、 卒業後の育成体制の構築して、土佐 打刃物の後進の育成に取り組みを図 る。 フラフの生地を活用した商品開発の 検討（他産業とのコラボ商品の開 発）

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>21 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化</p> <p>《香美市》</p> <p>利用可能な空き店舗の改修や、土佐山田えびす商店街のチャレンジショップであり、商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設でもある「ふらっと中町」の情報発信力を強化することなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市商工会 ・えびす街協同組合 ・地域活動団体 ・香美市 	<p>＜商店街を含む地域の活性化策の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっと中町及び商店街等との連携強化 えびす商店街活性化検討委員会の開催 H28：7回、H29：12回 チャレンジショップ運営委員会の開催 H28：9回、H29：12回 H30：11回 ・ふらっと中町の集客に向けた各種イベント（歌声広場、フリーマーケット、夏祭り等）の開催（H28～） ・空き店舗及びチャレンジショップを活用した開業支援 <p>商店街魅力向上事業費補助金 H28：3,983,820円 H29：9,111,176円 H30：2,999,000円</p> <p>香美市商工観光振興事業費補助金（チャレンジショップ） H28：1,991,910円 H29：3,037,058円 H30：2,999,000円</p> <p>香美市商工観光振興事業費補助金（空き店舗等利活用助成事業） H29：2,000,000円 H30：2,000,000円</p> <p>地域の頑張る人づくり事業費補助金 H28：599,000円（研修5回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップの機能の充実 チャレンジショップに飲食店区画を開設（厨房等の改修・H30） 	<p>＜商店街を含む地域の活性化策の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント開催によるえびす商店街の賑わいの創出 ⇒ふらっと中町における年間集客者数 H29：4,767人、H30：3,985人 ⇒ふらっと中町の運営における雇用の創出（地域支援員の配置） H28～1名 ・チャレンジショップに関する問い合わせの増加 ・チャレンジャーの安定的な確保 ⇒チャレンジショップ運営における雇用の創出 H28～1名
<p>22 高知県産の食材を活用したクラフトビールの製造・販売</p> <p>《香美市》</p> <p>高知県産の食材を活用したクラフトビールを開発し、生産規模の拡大及び安定的な稼働体制を確立するとともに、商工会や観光協会等と連携し、地元商店街のにぎわい創出を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会社 高知カンパニョブルワリー 	<p>＜生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ココラボビジネスサポート（専門家派遣）を活用した開業準備（H29） ・生産工程の検討 産業振興アドバイザーの招へい（H30, 2回） ・新商品開発に係る情報発信、製造機器の設置等 産業振興推進事業費補助金（ステップアップ事業） H30：726千円 <p>＜積極的な地産外商の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップ「まるごと高知」での販売、レストラン「土佐のおきやく」での提供（H30～） ・イベント「第12回 にほんのお酒」（大阪府）への出展（H30） <p>＜地元商店街のにぎわい創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント「えびす昭和横町」「刃物まつり」への出展 ・香美市内飲食店等での提供 6店舗（H30～） ・香美市内量販店での販売 4店舗（H30～） 	<p>＜生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、安定的な増産体制の確立に向けた計画の策定 ⇒雇用の創出 1名（R元.5～） ・県産米や米麹等を使った新商品の開発・販売 ⇒定番4品、限定品の販売 <p>＜積極的な地産外商の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント、見本市等でのPRによる認知度の向上 ⇒「ジャパン・グレートビア・アワーズ2019」金賞受賞（「和醸ケルシュ」）（H30） ⇒第33回高知県地場産大賞・奨励賞受賞（H30） ⇒「モンベル アウトドアヴィレッジ本山ビジターセンター」「スノーピークかわの駅おち」等での提供（R元～）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
空き店舗等を活用した 新規開業 16件（H28～31累 計） （H27：3件）	（R元年度末見込） － （直近の実績） 11件（H30年度末）	A	<p>香美市地域支援員による空き店舗調査の実施や活用策の提案等により、空き店舗を活用した新規開業は着実に増えている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開業支援のため、空き店舗情報の整理や家主との交渉を進めているが、老朽化した空き店舗は、住居を兼ねていることも多いため、賃貸契約に結びつかないケースがある。 ・空き店舗の耐震化や水回り等の改修費用が開業者の負担となっている。 ・ふらっと中町及びチャレンジショップへの集客数が伸び悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗兼住宅が多いため、香美市空き店舗等利活用補助事業等を活用し、店舗と住居の動線分離を行う等施策を提案していく。 ・チャレンジショップに係る情報発信の強化及び集客イベントの積極的な開催 ・耐震補修の支援策の活用を提案していく。 ・チャレンジショップ卒業後の支援（香美市内での開業に向けた物件探し等）
クラフトビール売上高 18,048千円	（R元年度末見込） － （直近の実績） 19,852千円 （H30.6月開業～ H31.3月末）	A +	<p>高知県産食材を活用した新商品を積極的に開発・販売するとともに、戦略的な情報発信（商品コンセプトに合致したイベントやフェアへの出展）、販路開拓を着実にやっている。また、販売額は、目標値を上回っており、順調に推移している。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年後の工場移転、生産力の強化に向けた設備投資計画の策定 ・製品の質の確保と衛生管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーからの助言をもとに作成した「増産体制計画」に基づく設備投資計画の策定 ・製品管理システムの導入及び県版HACCP認証取得 ・商品力の向上及びブランドの確立

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>23 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、民間事業者の視点も踏まえて地域の観光資源を一層磨き上げ、情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会 ・(一社)物部川DMO協議会 ・(株)ものべみらい 	<p>＜観光商品の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内観光素材の調査(H24～) ・体験プログラム素材の掘り起こし ・大学との連携によるエリア内周遊ツアーの造成(H30) ・土佐の観光創生塾の受講受講者数 H28：2人、H29：7人、H30：7人、R元：10人（予定） <p>＜観光客の広域誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミキハウスウェルカムファミリー観光地エリア認定(H29) ・ファミリー層向け広域観光パンフレット「とりせつ」の作成 H29：1万部 H30：1.2万部増刷及び繁体字化 ・物部川エリア版「ことりっぷ」発行（H30） ・エリア内イベント情報チラシ（ものべがわくわく号）の発行 年4回（H30） ・協議会公式HP及びSNSの構築 ・ビッグデータを活用したエリア内観光動態調査の実施（H28～） ・商談会等での旅行会社へのセールス活動 H29：4回 H30：17回※うちインバウンド向け4回 H31：5回（～R元.6月） <p>＜広域観光組織体制の充実・整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域の観光活性化に向け、地域内の関係事業者等により、広域観光組織「物部川DMO協議会」を設立（H28） ・物部川DMO協議会 事務局運営開始（H29） ・一般社団法人物部川DMO協議会として法人登記（H30） ・物部川DMO協議会の運営に対する支援 広域観光推進事業費補助金による支援 H28：2,000千円 H29：13,250千円 H30：14,000千円 R元：20,000千円（予定） <p>＜地域連携による周遊促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携企画イベントの開催 おさかなクリスマスin高知ものべがわ（H28） 物部川フェスタ（年1回） ・エリア内デジタルスタンプラリーの実施（H30） ・エリア内事業者向けモニターツアー(研修)の開催（H30：1回、R元：2回） 	<p>＜観光商品の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光素材集の作成 ⇒協議会会員での情報共有、旅行会社セールスでの活用 ・大学との連携によるモニターツアーの開催（H30：2回） ⇒JR四国による新たな旅行商品造成(1件) ・土佐の観光創生塾による旅行商品の造成・磨き上げ（H29：1件、H30：16件） <p>＜観光客の広域誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミキハウス子育て総研発行のフリーペーパー「happyNote」（全国2,140ヶ所設置・17万部発行）にエリア情報掲載（H29、H30） <p>＜広域観光組織体制の充実・整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川DMO協議会が一般社団法人化（H30） ⇒広域観光の推進体制の強化が進んでいる。 <p>＜地域連携による周遊促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おさかなクリスマス入込数：1,800人 ・物部川フェスタ入込数 H29：5,200人、H30：5,000人 ・スタンプラリー利用者数 5/3～6：25名、6/2～7/1：31名 <p>⇒各種イベントによる賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアー（研修） 参加者H30 26名、 R元：1回目17人、2回目17人

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
観光客入込数 144.5万人 (H26: 134.1万人) (対象施設) 南国市: 県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ、道の駅南国風良里(ショップ、直販レジ通過人数) 香南市: 県立のいち動物公園、アクトランド、月見山こどもの森、絵金蔵、ヤ・シイパーク、弁天座(歌舞伎関係)、香南市サイクリングターミナル(宿泊以外) 香美市: アンパンマンミュージアム、ピースフルセレネ、龍河洞、べふ峡温泉	(R元年度未見込) - (直近の実績) 138.4万人 (H30年末)	A -	物部川流域3市の観光関係事業者等が連携して、広域観光組織「物部川DMO協議会」を設立し、ビッグデータを活用したマーケティングや、体験メニュー等の開発、広域観光のプロモーション・セールス活動、広域連携イベントの開催等に取り組み、エリアへの観光客の増加につなげている。 また、物部川DMO協議会を一般社団法人化し、令和元年度には第3種旅行業登録も予定しており、広域観光を推進する体制強化が進んでいる。 <課題> ・マーケティング結果の活用 ・周遊促進を目的とする旅行商品の造成・販売(旅行業の活用) ・物部川エリアのブランド化 ・持続的な広域観光推進のための協議会の更なる体制強化	・マーケティング結果の事業者へのフィードバックや戦略的なプロモーション展開等への活用に取り組む。 ・一過性のイベントに終わらず、持続的・安定的に収益を取ることができる旅行商品づくりに取り組む。 ・エリアの主要産業である一次産業分野と観光分野を掛け合わせた6次化商品の開発やブランド化に取り組む。 ・物部川流域3市の関係者との連携を強化するとともに、マーケティングや戦略策定のノウハウを地域人材へ移転させることによる人材育成に取り組み、協議会の体制強化を図る。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>24 南国市の地域資源を活用した参加型観光の推進</p> <p>《南国市》</p> <p>地域が誇る史跡資源（長宗我部等）を活用したイベント・ツアーへの参加をきっかけとして、周辺の観光名所・施設への来訪や市内観光への動機づけとなるよう繋げる「参加型観光」を推進していく。</p> <p>また、ユニークな地名を活かした観光プロモーション・情報発信を行うとともに、主要観光施設の整備等により観光客の利便性向上を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）南国市観光協会 ・南国市観光クラスター連絡協議会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ <p>※地域産業クラスター関連（南国市還元野菜プロジェクト、南国市農業クラスタープロジェクト（ニラ））</p>	<p>＜参加型観光の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車の導入（H29） H30：各種イベントで24回活用して食等のPR <p>＜幕末維新博とタイアップした市内観光周遊ルートづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「南国市観光クラスター連絡協議会」の設立（H28） ・南国市観光案内人の会によるガイドの実施 <p>案内実績</p> <p>H28：15回、264名 H29：22回、303名 H30：22回、327名</p> <p>＜観光協会の体制強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会を一般社団法人化し、観光客や会員の多様なニーズに対応できる体制を構築（H25） 	<p>＜参加型観光の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長宗我部ラリー、土佐の食1グランプリ、ごめん祭等のイベント開催、SNSを活用した積極的な情報発信、移動販売車の活用による魅力の発信により、集客が図られた。 <p>⇒主要4観光施設※の観光客入込数</p> <p>H21：483,000人 →H30：504,000人</p> <p>＜幕末維新博とタイアップした市内観光周遊ルートづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光案内人の会によるガイドは、年々参加者が増え、参加者から好評を得ている。 <p>＜観光協会の体制強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の増加 <p>会員数</p> <p>H25：75→R元.6月末：84</p>
<p>25 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と文化や歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進するとともに、観光資源としての歌舞伎を活用し、歌舞伎を核とした交流の場づくりを行うことにより、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）香南市観光協会 ・香南市 ・香南市歌舞伎でまちおこし実行委員会 ・香南市観光クラスター協議会（香南市観光施設連絡会） ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>＜体験観光等に関する情報の一元管理＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光施設連絡会の開催（H28～） <p>＜体験メニューのブラッシュアップ等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験モニターの開催（H28～） H28：17回、参加者延387名 H29：6回、参加者延79名 H30：1回、参加者9名 <p>＜旅行商品の造成と販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講（H28～） <p>＜地域の観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会HP（H22～）、自然&体験キャンペーン特設サイト（H31～）等での情報発信の実施 <p>＜歌舞伎を核とした交流の場づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎によるワークショップの開催（H28～） H28：39回、参加者延633名 H29：51回、参加者延474名 H30：16回、参加者延396名 <p>＜幕末維新博とタイアップした歴史資源の磨き上げと周遊コースづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎による体験メニューの開発 	<p>＜体験観光等に関する情報の一元管理＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光施設連絡会の開催等を通じて、市内の各施設観光地で実施されているイベントや体験メニューの情報を一元化し、観光協会を窓口にして発信する環境を整えることができた。 <p>＜体験メニューのブラッシュアップ等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の体験モニターの実施により、香南市の観光資源の磨き上げを行うことができた。 <p>＜旅行商品の造成と販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講を通じて、香南市に眠る観光資源の磨き上げと、それを活用した旅行商品の造成のノウハウを取得することができた。 <p>＜地域の観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会が窓口となり、各地域の観光情報について、SNSやHPを活用した情報発信を実施することにより、幅広い層に認知してもらうことができた。 <p>＜歌舞伎を核とした交流の場づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤岡町弁天座での絵金歌舞伎伝承会によるワークショップや地域の学校等への出前授業等を通じて、地域文化を生かした交流の場づくりに寄与した。 <p>＜幕末維新博とタイアップした歴史資源の磨き上げと周遊コースづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験モニター、歌舞伎、サイクリングロード等、様々な観光資源を組み合わせた観光コース案を作成した。 <p>⇒作成した周遊コース数：6コース</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
主要4観光施設※の観光客入込数 555,000人 (H26: 539,000人) ※うち、 歴史民俗資料館 30,000人 (H26: 25,186人) ※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)	(R元年度未見込) 528,000人 (直近の実績) 504,000人 ※うち、 歴史民俗資料館 25,215人 (H30年末)	B	定期的なイベントの開催や、SNSでの積極的な情報発信、ガイドブックの発刊などにより、H27年には、県東部地域で開催した「まるごと東部博」の影響もあり観光客入込数559,240人と目標を達成したが、その後、観光客は53万人前後で推移した。また、H30年は、豪雨災害の影響により、観光客入込数が7月以降落ち込んだため、対前年比95%となった。 <課題> 集客のため、観光資源および既存事業のさらなる磨き上げとクルーズ船観光客の取込や体験型観光のメニュー開発が必要である。	・道の駅南国風良里での地域資源を活用したレストランメニューやお土産品の開発により、魅力を高める取組を進めるとともに、今後市内に建設予定の「ものづくりサポートセンター」を中心とし、体験型観光のメニューの開発、周遊観光のルート提案などを検討していく。
観光客入込数 55万人 (H26: 51.8万人) ※うち、絵金蔵7,820人、アクトランド 未集計 対象施設 県立のいち動物公園、アクトランド、月見山こども森、絵金蔵、ヤ・シイパーク、弁天座(歌舞伎関係)、香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)	(R元年度未見込) - (直近の実績) 64.7万人 ※うち、 絵金蔵 10,265人 アクトランド 10,265人 (H30年末)	A+	観光客入込数は順調に増加しており、当初の目標値である55万人を超え、H30年度には約65万人を記録した。高知市から近く、空港へのアクセスも良好な立地を生かした情報発信等を精力的に行っている。また、季節の花を楽しめるイベントや、マリンスポーツ体験や各種サイクリングコース等の地域資源を磨き上げ、着実に観光客の数を増やしている。 <課題> 全体の窓口である観光協会に旅行商品が造成できる有資格者が不在のため、体験モニターの実施に留まっている。また、今後は香南市単独ではなく、物部川地域全体の周遊コースづくりも視野に入れ、地域内の観光商品の魅力を向上させる必要がある。	・物部川地域全域での観光周遊コースの造成や地域の観光資源の更なる磨き上げを行う。 ・地域内の周遊観光コースの掘り起こしを進めて、(一社)物部川DMO協議会等との更なる連携も検討していく。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>26 三宝山プロジェクト</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市のシンボルである三宝山を観光拠点施設として整備するとともに、近隣の観光施設等と連携して、いろいろな楽しみ方ができる体験観光エリアをすることにより、県内外からの観光客の増加を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市 ・民間事業者（予定） 	<p>＜施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャトー三宝の耐震診断実施（H28） ・地権者と香南市の間に、土地、建物の借り受け契約締結（H28） ・運営事業候補者を公募し、運営事業候補者を決定（H29） ・井上ワイナリー株式会社が進めている三宝山中腹でのワイナリー事業を新たな地域アクションプランとして追加（H30） ・土地建物の無償賃借の契約解除（H30） ・土地建物の所有権を地権者から地元企業に移転 <p>＜委員会の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画検討委員会での協議（H29） ・基本計画の策定（H29） ・香南市三宝山周辺エリア広域観光ビジョン検討委員会での協議（H30） <p>＜周辺施設との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設間での協力体制の強化 	<p>＜施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業が山頂部分を一体的に開発することによる、持続性と採算性を確保した事業展開に至った。 <p>＜委員会の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28から続けてきた協議を踏まえ、山頂に限らない、三宝山一帯の持続可能な観光拠点化を目指す更なる構想を示した。 <p>＜周辺施設との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三宝山をランドマークとして、龍河洞やアクトランド等の既存施設と連携した物部川エリア全体での周遊できる観光コースの実現に向けた準備が整った。
<p>27 香美市における滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市の地域の資源を活かした体験型観光メニューを充実させるとともに、主要な観光施設を核とした周遊プランの造成・情報発信を行うことにより地域外からの交流人口増を図り、滞在型・体験型観光を推進する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・（一社）香美市観光協会 ・（株）香北ふるさとみらい ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 	<p>＜体験型観光メニューづくりと推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐塩の道に参加する観光客の利便性の向上に向けた基盤整備 地域づくり支援事業費補助金（土佐塩の道保存会香美支部備品整備事業） H28：740千円 ・土佐塩の道の認知度アップのためのリーフレット等作成 地域づくり支援事業費補助金 H29：1,230千円 ・地域づくり支援費補助金（ほっと平山BBQサイト新設等事業） H29：1,814千円 <p>＜観光協会の組織体制の充実と取組の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会のHPやfacebook、広報誌「いんぷおめーしょん通信」を活用した情報発信 ・観光客受入体制の整備、強化 国際観光受入観光整備事業費補助金（龍河洞HP多言語化・ドーム女子トイレ） H28：708千円 国際観光受入観光整備事業費補助金（アンパンマンミュージアムWi-fi設置） H28：324千円 国際観光受入観光整備事業（Wi-fi,外国人観光客向け観光案内看板） H28：150千円 <p>＜香北エリアを中心とした観光活性化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート改修 H29：観光拠点等整備事業費補助金50,000千円（総事業費192,635千円） 	<p>＜体験型観光メニューづくりと推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐塩の道トレイルランニングレース」参加者 H28：237 H29：272人 H30：249人 ・「土佐塩の道30kmうおーく」参加者 H28：65人 H29：99人 H30：104人 <p>＜香北エリアを中心とした観光活性化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンパンマンをモチーフとした客室へと改修 ⇒大手旅行会社の宿泊予約サイトで高評価を得ており、ファミリー層を中心に宿泊客が増加している

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
観光客入込数 20万人 (H27:0人)	(R元年度未見込) — (直近の実績) —	—	当初は三宝山の山頂のみの整備計画だったが、山頂に加えて三宝山全体を一体的に開発する計画に転換し、山頂部分の開発については、地元企業が主体となって進めていくことになった。 また、新たなAPとして、三宝山中腹の発電施設の跡地への醸造施設建設に向けて事業を進めている。 <課題> 地元企業が主導となったため、行政サイドからできることが非常に限られている。 当面は行政としてできる限りの伴走支援を実施する。	・地元企業の事業計画の進捗状況に留意及びその他の事業者との調整や物部川地域の他の観光関係事業者との連携・協働に向けた仕組みづくりに協力していく。
主要4観光施設の入り込み数（アンパンマンミュージアム、龍河洞、べふ峡温泉、ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート） 340,000人 (H26:284,665人)	(R元年度未見込) — (直近の実績) 245,213人 (H30年末)	B	H29.10月の台風被害（べふ峡温泉の宿泊棟が被災）やH30.7月の西日本豪雨、またピースフルセネ（現・ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート）の改修工事の影響により観光客入込客数は微減となっているが、被災した宿泊棟の改修工事が終わり、改修後のザ・シックスダイアリーの宿泊客数も増加してきており、R元年度は入り込み数が期待がもてる。 <課題> ・香美市における観光商品の磨き上げ及びラインナップの充実 ・香美市を含む物部川エリア全体の周遊コースづくりを進めるため、（一社）物部川DMO協議会と各観光施設との連携強化	・体験観光メニューの受入体制や窓口機能を強化していく。 ・香美市観光協会と（一社）DMO協議会が連携し、新規イベントやツアーの定期的な開催に繋げていく。 ・べふ峡温泉のバンガローエリアの跡地の利活用策を引き続き検討していく。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p>28 龍河洞エリア活性化推進プロジェクト</p> <p>《香美市》</p> <p>「龍河洞エリア活性化協議会」（地域住民、龍河洞保存会、（株）龍河洞みらい、商店街、香美市、県等で構成）が龍河洞エリア活性化基本計画を策定し、官民協働により実行することで、龍河洞エリアの活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍河洞エリア活性化協議会 ・(公財)龍河洞保存会 ・(株)ものべみらい ・(株)龍河洞みらい ・香美市 	<p>＜「龍河洞エリア活性化協議会」の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍河洞エリア活性化協議会の開催 H29：11回 H30：7回 ・龍河洞エリア活性化協議会部会・分科会・チーム会・有識者会等の開催 H29：6回 H30：9回 <p>＜基本計画の策定・推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍河洞エリア活性化基本計画の策定（H30） <p>＜施設の改修及び空き店舗対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金（龍河洞エリア活性化推進事業） H30：89,515千円 （龍河洞洞内コンテンツ整備事業） H30：24,194千円 <p>＜広報、PR＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社へのセールス活動の実施 ・新聞、テレビ、雑誌、地元紙を活用した情報発信 <p>＜集客イベントの開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ひかりの試練をクリアせよ。」 「龍の洞窟の歴史を変えろ。」 「Coloful SummeR AdventuRe」 「龍河洞みんなで彩る HAPPY HALLOWEEN」 「龍河洞 光と雪の物語」 「写真で振り返る龍河洞」 	<p>＜「龍河洞エリア活性化協議会」の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市地域おこし協力隊の派遣（H30～） （龍河洞エリア活性化支援業務） <p>＜基本計画の策定・推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、活性化協議会において今後の設備投資について協議（R元：2回） <p>＜施設の改修及び空き店舗対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金による洞内外の施設整備の実施 ⇒R元.7月 新龍河洞グランドオープン <p>＜各種イベントの開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントを通じた入洞者数の確保 ⇒観光客入込客数 H29：103,481人 H30：94,494人

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度未見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
観光客入込客数 120,000人 (H28 : 107,768 人)	(R元年度未見込) － (直近の実績) 94,494人 (H30年末)	B	<p>龍河洞エリア活性化協議会で策定した「龍河洞エリア活性化基本計画」をもとに、H30には、龍河洞内外の安全性・利便性向上に係る整備及び魅力向上に資するコンテンツ（照明や音響等を活用した演出）を導入した、夏休みに向けたリニューアルオープンのPR、エージェントと連携した誘客促進を強化している。</p> <p><課題> 「龍河洞エリア活性化基本計画」に基づき、事業を着実に推進するためには、事業実施主体の役割の明確化が必要である。</p>	H30に作成した「龍河洞動線・景観整備計画」を踏まえた事業の推進に向け、（公財）龍河洞保存会と（株）龍河洞みらいとが連携して詳細な事業計画を作成する必要があり、県・香美市がその支援を行っている。